

MDGs 達成における企業の役割

— 国連による企業とのパートナーシップ構築への模索 —

報告: 菅原絵美

●ミレニアム開発目標達成に向けた企業への期待

ミレニアム開発目標(MDGs)は、過酷な貧困におかれている地球上の何百万もの人々を救うために努力するという国連加盟諸国の政治的合意である。2015 年までのMDGs達成が危ぶまれているなか、思うように伸びないODAに対し、民間投資が急増している現状を受け、近年注目されているのが企業である。

国連は MDGs の実現を、企業とのパートナーシップによって果たそうとしてきたが、その期待度は年々高まっている。アナン前事務総長は、2001 年ミレニアム・サミットで明言されていた 7 つの原則に加え、「開発のためのグローバル・パートナーシップの推進」という第 8 原則を加えた。この第 8 原則のターゲットには、「製薬会社」や「民間セクター」と、具体的な文言が盛り込まれている。さらに、潘基文現事務総長は「新しいグローバル・パートナーシップ」として、第 8 原則のみならず、MDGs 全体の達成へ企業が努力することを宣言するよう企業に求めている。MDGs の中間年を向かえ、企業への期待は益々高まりを見せている。

●MDGs 達成へ向けた企業とのパートナーシップ: 国連グローバル・コンパクト

企業とのパートナーシップ構築のため、アナン前事務総長によるイニシアチブとして、2000 年国連グローバル・コンパクトが発足した。グローバル・コンパクトとは、「グローバルな約束」を意味し、国連事務総長と企業が書簡を通じて約束を交わすものである。では、何を約束するのか。アナン前事務総長は、ふたつのことを企業に求めた。

○人権保障、環境保全、労働基準遵守、腐敗防止からなる10の原則を、企業活動のなかで実現すること

○MDGsなど、国連が掲げる目標を達成するためのパートナーシップに参加すること

このイニシアチブを運営する国連グローバル・コンパクト事務所では、「開発のためのパートナーシップ」という課題を設定し、企業を支援するため、グローバル・ローカルなネットワーク作り、ベスト・プラクティスや共通課題の収集、ガイドブックやツールの作成を行ってきた。また、事務所は、企業と国連諸機関をつなぐ窓口にもなっている。

●MDGs 達成に向けた企業自身によるコミットメントの表明

MDGs 実現において企業の果たすべき役割が拡大していること、この認識が国連機関だけでなく、企業自身によっても表明され始めた。国連サミット(2007 年 7 月)や世界経済フォーラムで MDGs 達成に向けた企業の取組・役割の強化が叫ばれた。第 8 目標を越えた、MDGs 自体の実現のための国連と企業のパートナーシップが押し進められていることを象徴するものとして、下記の取組がある。

○企業が MDGs へのコミットメントを表明する「ビジネスからの行動要請」の採択(2007 年 7 月から)

○企業活動(本業)を通じた MDGs 達成が前面に押し出された(『国連とビジネスの連携の枠組み』より)

○史上初の「国連民間部門フォーラム」が国連ニューヨーク本部で開催(2008 年 9 月 24 日)